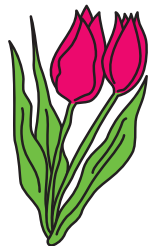


足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

あだち

第76号

令和6年3月21日

編集発行

足立区青少年委員会
広報部

足立区教育委員会
青少年課



<http://adachi-seishounen.jp>

足立区青少年委員制度発足70周年記念



70周年記念事業を振り返って



足立区青少年委員会会長

多島 三好

2月18日、70周年記念式典・祝賀会が多くの来賓、歴代の青少年委員の皆さまを迎え無事開催できたことに改めて御礼申し上げます。

4年ぶりに開催した健全育成団体親睦ソフトボール大会では、天気にも恵まれ和気あいあいと汗を流しプレイをしました。成績発表は綾瀬ブルミエで行い、久しぶりに懇親会を開催することができ、多くの方と語り合えました。

記念宿泊研修会では福島県相馬市を訪ねて、立谷相馬市長に復興の様子についての講演をしていただきました。また、震災語り部として活躍されている五十嵐ひで子様より東日本大震災におけるご自身の壮絶な被災体験の話を伺うことができました。この出合いがご縁となり、講師としてお招きし、記念講演会を開催しました。学校・PTA・開かれた学校づくり協議会などの多くの皆さまに参加していただき感謝申し上げます。

周年記念事業を行うにあたり、新型コロナウイルスが蔓延した時は、どうなるかと大変心配しましたが、実行委員会をはじめ103名の委員の力で前に進むことができました。会長として「ありがとう」の言葉しか出ません。

青少年委員会はこれからも力を合わせて子供たちの未来のために様々な活動を進めてまいります。

あだち区民まつりに参加して

広報部 高橋 美由紀

10月7日、8日の両日、快晴の青空のもとあだち区民まつりAフェスタ2023は荒川河川敷虹の広場にて行われました。

コロナ後5年ぶりの開催ということで大変多くの区民の方々が集まり河川敷を埋め尽くしていました。特にショッピングゾーンは大盛況で、早くから売り切れのお店もありました。

青少年委員会では「ミニSL」「1円玉アート」「ウォーターコイン」の運営に携わりました。特に目玉の「ミニSL」は大人気で子供たちの笑顔が絶えませんでした。「1円玉アート」では二日間で28,088円の募金が集まり皆さまのご協力に感謝いたします。

私自身青少年委員として初めての参加で、「ウォーターコイン」を担



ねらって、ねらって・・・

当しました。スタンプリーのスタンプを集めて完歩賞のほか抽選で賞品が当たるということでブース前は長蛇の列ができ、締め切り時間ギリギリまで賑わっていました。

目の回るような忙しさでしたが、小さなお子さんからご年配の方まで幅広い世代の方々と触れ合えて素直に「楽しい」と感じる体験ができました。そして、まつり終了後の撤収作業中、楽しんでくれた区民の方々の笑顔を思い出しながら私の気持ちも体も軽やかに「来年もまた」と思っているのです。



ミニSL 2630人の乗車がありました！

フォローアップ研修会を終えて

第7ブロック 関 広太郎

10月26日、生涯学習センターにて、フォローアップ研修会が行われました。今年度は、通常通りの委員全体の研修会となりました。

「若年者支援に向けた青少年課の

役割」をテーマに研修会が始まり、足立区の子供を取り巻く現状について物江青少年課長にお話をしていたきました。

都立高校中途退学者数が23区の中で突出していることや、生活保護者の人数の増加、生活困窮世帯が直面している問題が、多くある事を知りました。

その後、「青少年委員活動の悩み・相談」をテーマにグループごとに話し合い、今までは、新型コロナの規制もあり、なかなか学校へ行く機会も少なく、先生との連携もうまく取れないなどの話がありました。

今は規制も解除され、学校へ行く機会も増えて、より一層積極的に青少年委員として活動する役割が増えたいと思っています。



グループワーク

全体研修会

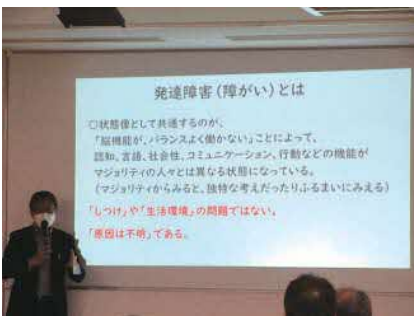
研修部 古川 美奈子

1月26日、全体研修会が開催され

ました。新しい試みとし、事前に青少年委員が求めている研修、また、それについての質疑をアンケートにて回答をいただき準備してまいりました。「発達障害とは何か」足立区子ども支援センターげんきの前川圭一郎様に質疑事項に沿ってご講演いただきました。講演では、キーワードが2つ。

- ①時代と共に変わりゆく障害観
- ②マジョリティとマイノリティ

従来は障害のある人に対し健常者に近づけようとしていたが、現在は環境を変えたり、そのためのスキルを身につけさせたりする時代へと変化してきているようです。発達障害の方の困り感に気づくことへの大切さを改めて強く考えさせられました。大変難しい内容でしたが、参加された委員の皆さんが熱心に聴き入っているのが会場の雰囲気であり、関心の高さを身をもって感じた研修となりました。



前川講師

「生きる」あの時を忘れない

副会長 嶋田健一

『地震が起きたときに、どうすればいいの？』11月19日、足立区立第四中学校体育館において、福島県相馬市伝承鎮魂祈念館の語り部五十嵐ひで子様をお招きし、委員制度発足70周年記念講演会を開催いたしました。

講演は、五十嵐様の東日本大震災における被災経験をもとにした内容であり、当日は秋晴れの穏やかな日差しに見守られ、近藤やよい足立区長、長井まさのり足立区議会副議長をはじめ、多数のご来賓の方々にご臨席を賜り、小学校・中学校校長、開かれた学校づくり協議会会長、小学校・中学校PTA会長及び学校関係者の皆さまにも多数ご出席いただきました。

福島県相馬市と足立区が結んでいく災害協定から生まれたご縁により、



多島会長の挨拶

青少年委員会では、平成25年6月と平成30年11月の二度にわたり、震災後の復興視察に赴いております。そして、今年度の委員制度発足70周年記念事業の一環として開催された記念宿泊研修会にて、三度目の訪問をさせていただきます。この研修会での五十嵐様との出会いが、今回の講演会をお願いするきっかけとなりました。

講演では、町が津波にのみ込まれていく様子を視聴した後、五十嵐様の被災した体験話が続きました。津波にのみ込まれながらも松の木に必死にしがみついて、つないでいた叔父の手が離れ、また一緒にいたご主人もその波のなかに「ひで子お」と叫びながら姿を消していった。その直後、ご自身も波にのまれ着ていたものも剥がされ、気がついた時には瓦礫から顔だけが出ている状態でした。必死に助けると叫び消防団に救助されたという壮絶な体験が語ら



当時の映像

れました。その体験を時折ユーモアを交えながらお話しされる五十嵐様のお人柄と、何よりも今を生きる力強さを感じさせられるものでした。五十嵐様が被災経験より子供たちに伝えたい言葉には「意識を持った行動を」と「自分の命は自分で守れ」というものがあります。伝え聞いて、教えられたことを理解し意識を持った行動が自分自身を守り、そしてその上に他人を守ることができると言えます。



語り部 五十嵐ひで子様

委員制度発足70周年に掲げたテーマ「生きる」未来の子どもたちへの「生きる」とは、ただ生命を維持することだけではなく、それは困難に立ち向かう力強さ、そして未来への希望を感じることでできる言葉であるため、被災経験とそれを語り伝える中から生まれてくる温かくも力強い五十嵐様のお言葉から、同様のことを教えていただいたように感じました。

文末となりますが、記念講演会を開催するにあたり、会場をご提供いただいた足立区立第四中学校の校長先生をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆さまへ感謝申し上げます。そして、五十嵐様におかれましては、くれぐれもご自愛いただき、今後も語り伝えていただきますようお願い申し上げます。私ども青少年委員も福島県相馬市及び記念講演会での教える意識して、これからも伝え続けることをお約束します。



会場の様子

※参加された皆さまの感想より
・実際に体験されたお話は伝える力が別格です。

・私たちができることは、「東日本大震災を決して忘れない」ことだと思います。

・「風化させない」「伝え続ける」「自分の命は自分で守る」等の感想が多くありました。

千寿青葉中学校創立20周年
第1ブロック 大原 恵子

11月25日、創立20周年記念式典が真新しい体育館にて肅々と開催されました。式典に先立ち様々なイベントで周年を盛り上げました。

- 6月5日 記念運動会
 - 10月14日 謎解きイベント
 - 10月21日 記念文化祭
 - 11月3日 地域ソフトボール大会
 - 11月10日 三遊亭兼好師匠落語会
- 以前からの行事に加え、新しいイベントに手探りをしながらも全校で取り組み、全力で楽しみました。

多くのご来賓に参列していただいた式典では、根本幸男校長より20周年を迎え成熟の時期がきたとのお話があり、鈴木幸雄前校長の言葉を引用し「校舎が新しく、立派な学校というだけでなく、本当は生徒と先生が立派な学校です。そしてそれを地域の方々が一生懸命支えてくださる学校です」と式辞がありました。

また近藤やよい区長からは「周年というのは単なるお祭りではなく、これまでの歴史をふりかえり、次の10年をどのように紡いでいくかを皆で考えることに大切な意味がある」とのお話が続いて『足立の子供』として夢を持つだけではなく、その夢の実現に向けて皆さんを全力で支援していくことを約束します」との力

強い励ましの祝辞をいただきました。これからも一歩一歩着実に前進できるような、地域として見守り続けていきたいと思えます。



アート部のステンドグラス



アンブレラスカイ

中島根小学校創立50周年
第10ブロック 武田 伸一

12月9日、師走としては20度近い小春日和のもと、創立50周年記念式典及び祝賀会が開かれました。式典に先立って児童による50年の歩みを各学年が発表し、終わりに児童、保護者、先生全員でバルーンリリースを行いました。

式典ではリニューアルされた体育館において鳥根ばやしに迎えられ、細川靖雄校長の式辞のあと、近藤やよい区長から祝辞を述べられ厳粛に進められました。

式典の終わりに式に参加した六年生児童によるコーラスと、琴の演奏が行われました。約二十張りの琴の演奏はとても壮大で素晴らしく、会場に響き渡った音色が参加者を魅了しました。その後、鳥根ばやしによる獅子舞いを披露していただき無事に終了となりました。

祝賀会は割烹平野屋にて盛大に行われました。大山教育長の祝辞に始まり地域の皆さまからも中島根小学校に対する温かいお言葉をいただき改めて地域から大変愛されている学校なのだと感じました。新旧の先生方も多く参加してくださり、和気あいあいとした中で終焉を迎えました。最後に、この中島根小学校を一番に愛し、周年を誰よりも心待ちにし



20張りの琴の演奏

ながらも病に倒れ、今も病氣療養中の開かれた学校づくり協議会の米重哲彦会長に想いを馳せて終了しました。



みんなでバルーンリリース

令和5年度周年事業実施校一覧			
実施日	学校名	周年数	開校年月日
11月11日(土)	江南中学校	70周年	昭和28年4月1日
11月18日(土)	舎人小学校	130周年	明治26年11月28日
	加賀中学校	40周年	昭和59年4月1日
11月25日(土)	長門小学校	60周年	昭和39年4月1日
	千寿青葉中学校	20周年	平成15年4月1日
12月2日(土)	梅島第一小学校	90周年	昭和8年4月11日
	栗島小学校	70周年	昭和29年4月1日
12月9日(土)	中島根小学校	50周年	昭和49年4月25日

二十歳の集い

東京武道館 令和6年1月8日(月・祝)

区 内 : 6,205人 (令和5年12月13日現在)
参加者 : 3,520人

実行委員あいさつ

谷川 温

令和6年1月8日、4年ぶりの一部開催となる「二十歳の集い」が実施され、人生の門出となる成人の日に大人としての第一歩を踏み出しました。

今年度のテーマは、『ハタチタチの新時代〜感謝の花束とともに歩みだせアタチ〜』です。私たちの青春時代は未曾有のパンデミックにより制限の多い時代でした。その中でも、家族や友人など周囲の方々を支えられながら様々な選択を重ね今ここにあります。花束のような感謝を胸に抱き、困難を乗り越えた私たち「ハタチタチ」がそれぞれの道を進み、アタチの新時代を切り拓いていくという想いをこのテーマに込めました。

また第二部では、和太鼓パフォーマンスや大抽選会など一部開催というところもあり大変盛り上がり、一生忘れられない思い出になりました。区長をはじめ足立区教育委員会、企画運営に伴走して下さった青少年課の皆様など沢山の皆様のご尽力を賜りまして無事式典を挙行することができました。感謝申し上げます。私たち「ハタチタチ」は、わがまち足立で得たものを生かし、立派な人間としてこれからの新時代を歩むべく、精進して参ります。



実行委員の皆さん

二十歳を迎えた皆さんへ

青少年委員会副会長

大西るり子

雲ひとつない晴天のもと令和6年成人の日に「足立区二十歳の集い」が東京武道館で開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の制限もなくなり、実に4年ぶりに従来通りの開催となりました。会場は立ち見が出るほど多くの希望にあふれた今年度二十歳を迎えた皆さんで埋めつくされました。

グローバル化やデジタル技術、AIの進歩など昨今の社会情勢は目まぐるしく変化しています。また甚大な自然災害や新しい感染症の拡大な

ど不測の事態も起きました。これからの予測が困難といわれる時代の中で皆さんは家族、学校、地域、友人などいろいろな人たちに支えられながら大きく成長し、自ら考え乗り越える「生きる力」を育んできました。テーマ「ハタチタチの新時代・感謝の花束とともに歩みだせアタチ」そして誓いの言葉にあった「この先どんな辛いことがあっても私たちが切り開く新時代にゆるぎない強さを持ち続ける事を宣言します」にはこれまでの感謝と「これからの足立区を自分たちが担っていく」という強い決意を感じました。

皆さんが切り開いていく新時代に期待し、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



一堂に会する4年ぶりの「二十歳の集い」



青少年委員制度発足70周年

広報部 佐藤健二
広報部 三國美香

記念式典

2月18日、澄み切った青空の穏やかな冬晴れの下、足立区青少年委員会「委員制度発足70周年記念式典・祝賀会」が浅草ビューホテルにおいて近藤やよい区長、工藤てつや区議会議長をはじめ、多くのご来賓や青少年委員OBを含め215名の皆さんにご出席いただきました。

当委員会では、東日本大震災や新型コロナウイルスウィルス感染症、最近では能登半島地震により多くの尊い人命が失われてきたことから、生きることの重要性を発信していくべきだと考え、「生きる」～未来の子どもたちへ～を周年のテーマに決めて、東日本大震災の体験や復興の様子を改めて学ぶために記念宿泊研修会、記念講演会等の事業を実施してまいりました。

当日の多島会長式辞では、青少年委員制度発足からの歩みと、足立区へ移管された歴史の話や、当初小学校のみに配置されていた青少年委員を平成14年に中学校へも拡大された経緯を説明しました。

現在は103名の青少年委員が教育懇談会をはじめ、それぞれの地域で様々な青少年健全育成活動を行い、多くの皆さんからご支援いただいていることへの感謝と、今後のご支援とご協力をお願い申し上げます。

祝辞として、近藤区長は家庭・学校・地域の三者の架け橋となっている青少年委員への期待を述べられ、子供たちの声を反映させる施策を着実に実行し、一人一台のタブレットを利用したきめ細かい学習指導の成果と教育現場活性化の現状をお話いただきました。また、工藤区議会議長からは地域の中での青少年委員の役割の重要性と、今後の期待を述べられ、私たち青少年委員一同、身の引き締まる思いで拝聴しました。その後、登壇者のご紹介があり記念式典は閉会となりました。



多島会長式辞



開催直前の緊張感

祝賀会

開会の挨拶に続いて、お二人から祝辞をいただきました。吉田区議会文教委員長からは、福島県ご出身の子供時代の思い出話や、現在の足立の子供を取り巻く環境について話され、子供の居場所作りと学力向上の課題に議会としても取り組んでいる現状をお話いただきました。

大山教育長からは、千住地区の小中学校の統廃合では子供第一主義で取り組んだ経歴と、現在は不登校の問題解決にあたっておられるとの事でした。不登校になる原因は、子供一人ひとり違うため大変デリケートな面があり時間をかけて向き合う必要性を訴えられました。

その後、参列された70名以上のご来賓紹介に続き、小関教育委員会教育長職務代理の方から、教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上に足立区が取り組んでいることを伺ってから、高らかな乾杯のご発声で祝賀会がスタートしました。

お世話になっているご来賓テーブルを囲んでの挨拶や、青少年委員OBとの思い出話に花を咲かすなど、美味しい料理と共に、懇親が深まる楽しいひと時をすごしました。

アトラクションの「津軽三味線あべや」の軽快なトークと、津軽三味線の華やかな演奏にも聴き惚れました。

加藤地区対連絡協議会会長の中締めと、荒堀青少年委員会元会長の万歳三唱では会場が大いに沸き、その後、閉会の挨拶でお開きとなりました。

「生きる」
～ 未来の子どもたちへ～

東日本大震災や新型コロナウイルス感染症などの意外な災禍により、多くの尊い命が失われました。生きることの重要性を伝えるためには、人々との絆を深め、愛情や思いやりの大切さを理解し、夢や目標を見つけて、人生の充実と成長を感じさせる必要があります。青少年委員会では、足立区の未来の子供たちのために「生きる」ことの喜びや楽しさを伝える活動に励んでまいります。



青少年委員会
下川前会長

青少年委員会
北島元会長



津軽三味線あべや



青少年委員会
荒堀元会長の万歳三唱

地区対連絡協議会
加藤会長の中締め

研修部の活動

研修部長 高橋 将郎

宿泊研修会後の活動として、10月26日フォローアップ研修会・1月26日全体研修会を開催致しました。

フォローアップ研修会では小・中学校担当委員を分けベテラン委員・新任委員との組み合わせにより様々な意見交換をして貰いました。

全体研修会では、前川先生に、発達障害という難しい課題のテーマについて講演していただきました。表面的には理解していましたが、より掘り下げて詳しく講演していただき勉強になりました。

今後も、様々な研修により学んだ知識を糧として活動できるよう研修部会一丸となって取り組んでまいります。

2月23日、青少年委員会ブロック部主催のビーチボールバレー大会が千寿本町小学校にて開催されました。冷たい雨が降り頻る中ではありましたが、選手そして応援団と総勢50名の委員が参加しました。委員会内の各ブロックが優勝を目指して体力の限界に挑戦し、いい汗を流しました。優勝は第11ブロックでした。

足立区青少年委員制度発足70周年を迎えた今期最後の事業が終了しました。



優勝決定戦

事業部の活動

事業部長 渡邊 淳子

今年度事業部では、年4回の飾りつけ（端午の節句・七夕・お月見・お雛様）とポスター配布、青少年健全育成団体親善ソフトボール大会、あだち区民まつりでのイベント {ミニSL・1円玉アート・ウォーターコイン} 青少年委員会新春教育懇談会でのアトラクション、すべて行うことができました。

また、青少年委員会制度発足70周年の年でもありましたので、記念講演会も行いました。

事業部員はもとより、青少年委員全員が一つになり成し遂げたことと思います。ご協力に感謝申し上げます。

東京都青少年健全育成成功労者表彰受賞

令和5年度は足立区では2名の方が受賞され、11月21日都庁にて感謝状が贈呈されました。

足立区青少年委員会会長 多島 三好
足立区少年団体連合協議会会長 四宮 淳司



左 多島会長
右 四宮会長

編集後記

広報部長 吉田 雅子

今年度はコロナ禍で3年続いた自粛を経て、以前の活動が戻ってきました。前期は宿泊研修会、教育懇談会、後期はフォローアップ研修会、70周年記念講演会、二十歳の集い、全体研修会、70周年記念式典・祝賀会に参加するとともに広報部として多くの取材をすることができました。

また、記念誌の作成に携わり過去の活動を顧みて今後の活動へのステップとなる良い機会となりました。それぞれの活動を紙面でお伝えすることは、委員の皆さんの協力で作り上げていけるものだと実感しています。原稿依頼を快く引き受けていただいた皆さんに感謝申し上げます。

ホームページ更新が今後の課題になりますが、広報部一同協力して情報収集や取材を通じて活発な情報発信に努めてまいります。